

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

須 田 瑞 穂

○千葉県佐倉市

「民間プールを活用した水泳授業の民間委託」について

【所 見】

千葉県佐倉市の民間プールを活用した水泳授業の民間委託について行政視察を行った。佐倉市は、学校のプールを撤廃して、水泳の授業を市内のスイミングスクールで行うという公民連携の取り組みを実施している。この民間委託は、ファシリティマネジメントの一環として、小中学校のプールにかかる維持管理費を抑える目的から発想されたもので、市内の小中学校 34 校にあるプールを撤廃する場合と従来どおりにプールを維持管理し、老朽化の際には造り替える場合に比べて、費用を大幅に削減できる形となる。

現在、市内の 2 つの小学校において、プールを使う授業を民間のスイミングスクールで実施している。

スイミングスクールと学校との間は、スクールが所有するバスで教師 3～4 人と児童約 100 人が移動する。移動時間を考慮して、従来 2 コマ×5 回だった授業を、2.5 コマ×4 回に変更する必要があったが、市の教育委員会もカリキュラム変更を承認して授業を行っている。

事後アンケート結果では、児童・保護者・学校関係者それぞれの立場からの満足度も高い形となっている。

スクール側にも、利用客が少ない平日昼の時間帯にサービスを提供できるという利点がある。この授業の評判が良ければスイミングスクールの宣伝にもつながる形になると思っているようだ。

本市においても、現在、公共施設の在り方について多くの意見や考え方があがってきている。財政が潤沢ではない現在の行政の在り方として、特に公共施設というものは、ある程度選別をする必要があるのではないかと私個人としては思っている。各町内の世帯数をみても、50 世帯の町内もあれば 500 世帯近い町内もある。町内や地区の形を変えていかないとやりきれない部分があると考えられ、統合するもの、また残さなければならないものがでてくる。本市においてもしっかりとした長期計画を立て、実施する必要があると考え、この行政視察の良い部分を活かしていきながら、本市の発展に繋げていきたいと思っている。

○千葉県我孫子市

「新規就農者支援事業」について

【所見】

千葉県我孫子市の新規就農者支援事業について行政視察した。

我孫子市では、農業を営む方の高齢化などによって、農家が急速に減少し、放棄されている農地が増えている。新たに農業を始める方を増やすために学ぶ機会を設け、農家になるための相談を受けるなど農業を守る努力をしている。

新規就農を希望する方の情報は、月に一度会議の場を設けており、担当課の方に問い合わせがあった場合等は電話で対応しているが、細かい部分の説明は、必ず一度は相談者の方と面会し、土地の見つけ方や、給付金の話、資料提供を行っている。また、JA我孫子も補助を行っており、情報提供は常に行っている。

給付金の枠は、45歳までの新規事業（農業）をしたい方が対象となり、現在の就農者は主に野菜を作っている方が多いことから、米作を希望する方はいないのかという質問があったが、現在、一から米を作るとなると準備が大変なことや、米の価格も下がってきていることから、希望者する方も少ないのが現状とのことである。

また、平成26年7月に新規就農者を会員とする「我孫子市新規就農者連絡協議会」を設立しており、相互に協力し合いながら安定した農業経営を行うことができるよう今後もこの協議会を支援していくとのことである。

我孫子市は、大切な財産である農業の発展のため、農業振興基本条例を定め、新規就農者の支援や、安全・安心をアピールできる農産物の供給、地産地消の推進などに力を入れていた。

本市においても、先進的な農家で研修を受ける「足利市新規就農塾」制度や、農業経営の現状を理解するための講座である「足利市農業大学講座」などについて、周知チラシを作成して就農相談会や市の公民館等でPRをしている。また、足利市役所、足利市農業委員会、JA足利、栃木県安足農業振興事務所で「就農支援ネットワーク」を作り、就農希望者の情報共有と相談を受けている。

このように新規就農者の状況を踏まえて、多くの対策を講じているが、さらに市・県・国が一体となって対策をしていくことが、農業の担い手の人材確保につながるものだと考える。我孫子市を参考にしながら本市の新規就農者事業を更に前に進めていきたい。